

「消費者と顔の見える農業を目指して！」



原田 広志 (32 歳) 新規参入
(上島町)

1 就農の動機・理由

幼い頃から祖父母が住む田舎の自然環境が好きだったこともあり、農業に漠然と関心があった。社会人となり働くことや人生について改めて考えている中で、昔から憧れていた農業を職業の1つとして考えるようになった。

上島町地域おこし協力隊に採用され、地域協力隊の活動をとおして上島町の良さを知り、ここで農業をしようと決意した。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (平成28年)	現在の経営 (令和3年)	将来の経営 (令和6年)
労働力	男1人(本人)	男1人(本人)	男1人(本人)
経営耕地	畑 30a 樹園地 40a	畑 30a 樹園地 54a	畑 30a 樹園地 133a
経営内容	多品目野菜 30a 中晩柑 40a	多品目野菜 30a 中晩柑 54a	多品目野菜 30a 中晩柑 83a アボカド 50a

○農業用施設

倉庫 1棟
作業所 1棟

○主要農業機械

軽トラック 1台
管理機 1台
草刈り機 1台
動力噴霧器 1台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 京都府京都市
職歴 JR西日本メンテック
上島町地域おこし協力隊

就農研修歴

渋谷農園 (京都府)

(H27.4.1~H27.10.31)

就農年月 平成28年11月

(2) 就農時の思い

農業を始めるにあたり、出身地の京都、父の実家のある尾道市、地域協力隊として働いていた上島町岩城の3か所が候補となった。地域協力隊での活動をとおして、自然豊かな島の良さを知ることによって岩城島での就農を決意した。

果樹栽培に取り組むにあたり、野菜しか研修経験がなかったため、栽培技術がないことについて少し不安に感じていた。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

京野菜を栽培している農家と自然農法を実践している農家で研修を受け、野菜に関する基礎的な技術を学んだ。

就農後は、地域の農家や研修先、普及指導員から栽培管理を教わるなど、知識及び技術の早期定着を図っている。

(2) 資金の準備

農業次世代人材投資事業（経営開始型）を活用している。

(3) 農地・住宅の確保

農地は、協力隊や地域活動で知り合った農家の方から借りている。

住宅も知り合いの紹介で倉庫付きの住宅を借りることができた。

(4) その他苦労したこと

野菜栽培を中心に研修したので、柑橘の栽培についての知識はほぼ無かったが、協力隊の時に知り合った農家やしまなみ農業指導班の方たちに教わりながら栽培している。

5 農業経営の特徴

多品目の野菜を無農薬・無化学肥料で栽培している。収穫した農産物は、個人への宅配や地元の直売所で販売する等、消費者と顔の見える農業を目指している。

また、将来は、野菜と柑橘（レモン）のセット販売を考え、レモン栽培に取り組んでいる。

6 これからの夢

野菜と果樹を組み合わせた複合経営を目指す。果樹は、レモンに加えアボカド栽培にも取り組む予定としている。

また、収穫体験等を通して農産物の生産だけでなく農業の多面的な価値や魅力を多くの人に伝え、地域の活性化に貢献したい。

7 成功したキーポイント

協力隊の活動を通じて地域とのつなが

りができ、農地や住宅の確保、栽培技術の習得がスムーズにできた。

8 就農を目指す方へのアドバイス

就農を決意したら栽培方法や経営内容等、何か1つでもブレないことを決め、それに向かって進んで頂きたいです。

また、農業は1人ではできません。地域の方や関係機関との協力も必要となります。そのためにも、積極的に地域行事等に参加し、地域の一員となれるよう取組んで頂きたいです。

○ 指導機関からのひとこと

原田さんは、岩城島にIターン就農し、高齢化が進む当地域の大切な担い手となっています。若い力で農業の新しい魅力や情報の発信を期待しています。

執筆機関

東予地方局産業経済部今治支局地域農業育成室
しまなみ農業指導班(0897-72-2325)
岩城駐在(0897-75-2014)



キャベツの定植作業